



# あけましておめでとうございます

日高農業改良普及センター 所長 宮町 良治



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては新たな年をご家族と共に健やかに迎えのことと心よりお慶びを申し上げます。

また、日頃より普及センターの活動に際しまして深いご理解と温かいご支援を賜り、心より感謝とお礼を申し上げます。

さて、昨年も引き続き新型コロナウイルス感染症への対応により日高管内においても様々な業種に大きな影響が及びました。農業分野におきましても需要の減少や価格低迷に悩まされ

るなど、ご苦労の絶えない1年であつたと思います。

そのような中、農耕期間の気象経過を振り返りますと3～4月の気温は平年よりもやや高く春耕起作業が平年並に順調に進みました。5～6月も好天に恵まれ各作物の初期生育は概ね良好に経過しました。しかし、7～8月は猛暑に見舞われ降水量が極端に少なく乾燥した天候となりました。8月中旬以降は気温が下がり適度な雨も降りましたが、高温少雨の影響による障害が各所に見受けられました。

5月から10月までの静内アメダスポイントデータによると積算気温は平年と比べ上回り(105%)、日照時間も多く(115%)、降水量は年間を通じて少なく(78%)経過しました。幸い大きな災害もなく作物全般においては、平年作からや

や良好な結果を得ることが出来ました。

明るい話題としては、軽種馬産業においてサラブレッド競り市の年間売却額総額が過去最高額を記録しました。また、ホッケイドウ競馬においても馬券発売額が道営競馬史上の最高額を更新しました。日本中央競馬界においても日高管内の生産馬が大活躍し全国ニュースでも数多く取り上げられ、馬産地「日高」の名前が広く伝えられました。

引き続きコロナウイルスへの対応が見込まれる中、農業・農村を巡る情勢については厳しさが継続する場面が見込まれます。その一方で国産農・畜産物への見直しへの風潮が強まり自然環境が豊かな北海道への追い風も期待されます。

普及センターとして農業者の皆様の実践的な取り組みと日高地域の良さを生かした次世代に繋がる農村・地域づくりのお手伝いを本年も更に強力に進めて参る所存です。本年が皆様にとりましてご健勝で豊穰の年となります。

ますようご祈念申し上げ新年にあたってのご挨拶といたします。

